

平成 27 年度特定非営利活動に係る事業報告書

NPO法人八千代オイコス

I 実施事業内容

東京から東洋高速鉄道で 40 分の距離にある我が街八千代も開発の波が押し寄せ、自然のホタルやメダカの生息が見られていた場所が年々その数は減少している。水田の乾田化や農地の減少、水質汚染、水辺の環境悪化等が最大の原因である。このままでは八千代市の豊かな自然環境は損なわれてしまうとの思いから、八千代オイコスは自然環境を守るため、住民・地域企業・行政その他の市民団体等と連携を保ちながら、2001 年 12 月に設立し、以来花輪川を中心に環境保全と環境啓蒙活動を行っている。

1. 地域環境の保全を図るための自然環境調査・評価事業

(1) よみがえれ花輪川事業（豊かな自然を感じられる花輪川）

—印旛沼環境基金及び八千代市 1%支援制度助成事業—

八千代市は新川（印旛沼放水路）に代表されるように印旛沼水系にある市です。その印旛沼の水質は様々な理由によって汚染され、一昨年も全国ワースト 1 という不名誉なことになっている。

花輪川は八千代市北西部を流れ、桑納川から新川、印旛沼に注いでいる。私どもは「印旛沼をきれいにするにはまず身近な河川から」という合言葉の下に花輪川の水質浄化と豊かな自然環境を市民と共有し、印旛沼再生に思いを馳せてもらうことを願って活動している。

① 花輪川遊歩道の整備と花壇の保守

(ア) 遊歩道の整備

花輪川には桑納川まで散策できる側道がある。この景観を保全するために花輪橋～土橋までの範囲で清掃、雑草刈りを毎月 1 回、夏場は 2 回行い遊歩道としての通路を確保している。また、側道脇や花壇の草木に陶板で作成した名称表示板を貼付け、散策者に樹木や草花の名称を知ってもらい自然をより楽しんでもらう試みを行っている。

(イ) 花壇の花苗植栽

花輪川の土橋から上流 50m には側道脇に整備した花壇がある。そこには季節に応じた草花を植栽するとともに、川の堤側面にはマツバギクの植栽を行い、遊歩道を訪れる市民の目を楽しませるため景観の保守、整備を定期的に行っている。

本年度も環境緑化公社や市内の園芸店からご協力いただいた。

② 花輪川河川内の整備

(ア) 水草の繁茂状況

夏場の度々にわたる豪雨の影響か中洲護岸の崩壊とともに川底の土壌も押し流され、一時は川全体で繁茂する光景が見られたヤナギモやオオカナダモ等の水草も今年はほとんど見られなくなっている。

(イ) 中洲の護岸修復作業

夏場の急激な増水や激流の発生で中洲の護岸の崩落が起り、その都度修復を行っているが、夏場はアシ等の繁茂が激しく間に合わない状況が起こっている。花輪川全体の川筋も変化がみられるが、自然に抗うことをせず様子を見守りながら美観を維持することを心掛けてきた。今年もほたるの里などでの剪定枝で 12 月～3 月までの冬場に護岸の修復を行った。

③ 花輪川最上流部分の自噴量と水質調査

(ア) 花輪川最上流部の流入水

花輪川の上流部は暗渠で緑ヶ丘住宅地の雨水管に繋がっている 3 面コンクリートに覆われた排水路である。八千代緑ヶ丘住宅地北東部の東葉高速鉄道操車場脇下を流れており、花輪橋を過ぎてから花輪川となる。この水路には吉橋工業団地内の工場で使用した処理水（原則は法令で規制された基準を満たした水）、川底のコンクリート孔 5 箇所からの自噴水、その他にも山側の側面数か所からも湧水とみられる水、操車場側からも車両を洗車に使用した処理水など多くの水が流入している。

(27年度実績)

(イ) 川底4箇所からの自噴水の水量と温度調査とその結果

花輪川最上流部の水路の調査は平成23年11月から行っており、平成27年も3月、5月、7月、11月の計4回の測定を行った。

年月日	H27.3.12	H27.5.17	H27.7.23	H27.11.17	前年度平均
気温	10℃	24℃	27℃	18.5℃	
川の水温	14℃	20℃	23℃	18.0℃	
自噴水温	16℃	18℃	18℃	17.0℃	
自噴水合計量(L/毎分)	111.66	124.98	120.3	132.24	122.30
川の総流量(L/毎分)	2,713.3	3,136.6	3,779.8	2,091.0	2,680.18

この自噴水の温度は気温や川の水温と比較して、夏では17～18度前後、冬は14～15度前後と、比較的安定していたことからこの自噴水は比較的浅い層ではあるが地下水であると推測される。この水路ができる以前、このあたりは湿地帯であったことからこの川底穴は地下からこの4箇所の孔は湧水を逃がす噴出孔であることが考えられる。

(ウ) 花輪川上流の流入水の水質調査と比較

本年度はこの花輪川の上流部分の流入水のうち、A暗渠の出口付近、B川底4箇所からの自噴水、C山側側面から流入する湧水と比較のために、D花輪川中流（土橋付近）の4箇所の水質調査と分析を行った。

〈表Ⅰ〉 【年間（5・9・12・3月）4か月の平均水質比較】

		COD	NO ₃ -N	NH ₄ -N	P H
A	最上流暗渠出口付近	6.0	5.0	1.0	7.4
B	地下からの噴出水（4孔平均）	2.0	4.1	1.8	6.8
C	山側横穴からの流入水	0.8	3.3	0.2	6.2
D	花輪川中流域	4.2	6.2	0.5	7.3

注一COD（化学的酸素消費量）許容範囲は5以下（コイやフナが住める上限）

NO₃-N（硝酸態窒素）飲料水環境基準は10以下であるが、畑の肥料などに含まれる。

NH₄-N（アンモニア態窒素）雨水の標準は0.4程だが、腐敗が進むと高くなる。

P H（水素イオン濃度）酸、アルカリの目安。酸性<7中性<アルカリ性となる。

④ 花輪川の放射線量の定期的な測定と観察

平成24年3月より八千代市より放射線量計を借用し毎月測定を行ってきた。

昨年も川の放射線量を定期的に測定してきた。その結果、前年同様に川の側道や周りの田畑には基準値を超える放射線量は一切測定されなかった。

〈表Ⅱ〉 【花輪川中洲空間放射線量 月別抜粋】 平成 年. 月. 日（高さ1m）単位（ μ Sv/h）

	測定場所/測定月日	24.12.9	27.2.8	27.6.29	27.10.11	27.12.22
1	花輪橋第一階段下中洲（最上流）	1.166	0.606	0.527	0.568	0.485
2	第2階段下左岸中洲	0.568	0.180	0.252	0.236	0.223
3	第3階段下左岸中洲	0.525	0.237	0.225	0.235	0.219
4	第4階段下左岸（無名橋下3m）	0.518	0.171	0.163	0.171	0.162
5	第4階段下左岸（NO180付近）	0.673	0.202	0.225	0.246	0.194

☆国の放射線量暫定基準値は0.23 μ Svである。

☆平成24年12月の数値はいずれも環境基準を上回って汚染度は高いが、3年後の平成27年は「1」を除きいずれも環境基準を下回ってきている。

☆今後も定期的に定点観測を続けてゆくが、放射線量の水準は既に子供が1～2時間入って遊んでも問題はない水準になっている。

⑤ 環境美化里親（アダプト）制度の活動

本年度も花輪川の各活動においては平成20年5月に改定したアダプト制度の合意書に基づき、八千代市土木建設課と連携をとりながら活動を行っている。

2. 自然環境に関する意識開発、環境教育支援事業

(1) 川の学校

今回は以前と同様に花輪川を中心に川の学校を開催しました。

8月8日の一日目、班作りから始まり、花輪川の水の検査を各自で試薬を使い調べて花輪川に入り目網とペットボトルで作った仕掛けを設置した。2日目は仕掛けを外しどんな生き物が入っているかをしらべ、全員花輪川の中の生き物探しに夢中になる。午後には農業研修センターに移動してワークショップ「花輪川に生き物がたくさん住める作戦会議」を班ごとに話し合いそれを発表しあいました。参加者は市内の小学校より42名の子供たち、27名の保護者(未就学3人+小2年)の参加があり発表は大人の班も一緒に行い例年同様参加頂いたご父兄、児童からは大好評をいただくことができました。

かわら版川の学校特集号を参照

3. 地域のホタル等の水辺の動植物調査及び棲息環境の保全・改善事業

(1) 市内のホタル調査

- ① 本年度も会員により、八千代市内に生息するヘイケボタルの調査を行ったが、確認個所も少なくなり、ホタルの分布個所の集計ができなかった。
- ② 8月1日(日)には八千代市民40名の参加による八千代でも数少ないホタルの自生が見られる石神谷津にて開催。
昨年からの地も自然のホタルの減少が目立ち本年もあまり多くは見ることが出来なかった。以前は毎年数十匹を超えるヘイケボタルが見られたが、上流の谷津がなくなり住宅開発が進んでいる事と、例年実施される田圃への除虫薬飛行散布も影響しているものと思われる。
- ③ 8月12日(火)に有志による合同調査を行なった。八千代ゴルフクラブ脇の間谷谷津には無数のホタルが乱舞する姿を確認したがこの場所も次第に人の知れるところとなり、何らかの保存対策を検討するべきである。

4. 地域の里山自然保全のための河川等の水質浄化及び湿地帯、休耕田の有効利用事業

(1) 米づくり体験教室を開催

昨年に引き続き神久保において1/4反ほどの小規模田圃を借り受け、全て手作業にてもち米の植え付けを行った。本年度は一般市民から希望者を募った結果、6家族、23名が参加してくれた。田植えから他の草取り、ハザ架け、収穫まで大勢の参加者でにぎやかに楽しく作業が進められた。天候にも恵まれ昨年より10kg多い約84kgの収穫ができた。

(2) 餅つき会

昨年度に引き続き島田地区、道の駅の新川の対岸に新設オープンされた島田地区農業交流センター広場で12月20日(日)に開催した。
参加人数は米づくり教室の会員6家族を含め21家族大人28名、子供12名。
もち米43kg、臼で25臼搗いた。本年は交流センターの蒸かし機を2台お借りして臼部隊と餅つき機を2台使用、打ち手の負担を少なくしようと試みをした、良質なお餅を搗きあげることが出来た。
当日は農業研修センターのご協力を得て、風もなく好天に恵まれ、暖かい一日をおいしい搗きたてのお餅とトン汁などに舌鼓みを打ち、楽しいひと時を過ごすことができた。

5. まちづくり活動に係る行政及び諸団体との協働及びネットワーク事業

(1) 印旛沼環境基金助成事業成果報告会にて発表

平成27年1月22日(金) 印旛沼合同庁舎2階大会議場

八千代オイコスでは27年度の活動をパワーポイントにて発表した。

(2) 八千代市1%支援制度に応募

八千代オイコスでは本年もこの制度に応募し花輪川遊歩道、花壇整備の活動にこの資金を充当した。この制度は市民税の1%が納税者の指定する市民団体の活動に支援されるものである。毎年市民に協力を呼び掛けているのだが、金額は56,165円であった。どこに訴えかけるのが問題であるような気がする

ただし、来年度からは制度に変更があり、金額は半分になってしまいそうなので倍の人数の得票が必要となってくる。

(3) 行政及び市民活動団体との協働

① 八千代市市民活動サポートセンターでの協働

八千代オイコスでは八千代市の市民活動サポートセンターには毎年継続的に運営スタッフや運営委員として参画し、その運営に関して積極的に協力している。

- ・平成27年11月1日(日)「市民活動サポートセンター祭り」フルルガーデン広場
- ・平成28年2月20日(日)第1回NPOフォーラムに参加

② 千葉県河川環境課との協働

八千代オイコスは千葉県の「印旛沼連携プログラム」の参加団体として登録されている。この事業の一環として、毎年「花輪川エコウォーキング」として実施してきた。

本年度は4月4日に「菜の花エコウォーキング」を開催し10月25日に秋のエコウォーキング「花輪川歴史散歩」会員を案内役に行いました。

③ 八千代市「ほたるの里づくり実行委員会」との協働

八千代オイコスはこの会の団体会員に登録しているが、オイコス会員の内、数名が「ほたるの里づくり実行委員会」の役員になり、その運営に参画し、行事企画・実行に協力している。

- ・平成27年4月11日(土)ほたるの里総会、生き物調査報告会に参加。
- ・平成27年6月28日(日)バス見学 見沼たんぼ見学会に参加

④ 八千代市環境保全課との連携活動＝行政主催の以下の行事に参加

- ・平成27年10月8日(水)桑納川ナガエツルノゲイトウ合同調査。
- ・平成27年11月15日(日)八千代市里山シンポジウム(郷土史博物館)。

(4) 企業の協賛

① イオン八千代緑が丘店において「イオン幸せの黄色いレシート」キャンペーンに参加し、毎月11日には店頭活動を行い、活動に必要な文具や作業用品の支給を受けている。

② イオンでは毎年3月11日に東日本大震災支援キャンペーンを行っている。

(5) 広報活動

① 八千代オイコス会報の発行

本年度は29号(5月)・30号(10月)を昨年に続きカラー印刷にて毎号500部発行。千葉県庁、八千代市庁、市内図書館、公民館他の公共施設等、30個所に設置をお願いする他、協力団体や市民にも配布し、八千代オイコスの活動を広く紹介している。

② ホームページにより各月のオイコス活動を掲載

本年度も専門家に依頼し、ホームページのシステムとデザインを変更した。引き続きロリポップとサーバー使用契約を結び、ホームページを随時更新している。

II 本年度の成果と留意点

オイコスは長きに渡り花輪川の清掃と水の浄化を目指し活動を続けてきましたが、都市化の波は活動の範囲を超えスピードを増しています。これまで外に向かってアピール出来るオイコス活動としては花輪川を使った[川の学校]、通年を通して神久保の[米作り]が主でそれは八千代と言う都市化と原風景が混在する中でたくさんの子供たちに体験を通して八千代がその子供たちにとって故郷として心の片隅に残っていてほしいと願い、また八千代のたくさんの子供たち同士の知り合う場、友達つくりの場として、“自然”と言うキーワードの中で、八千代でしか出来ない経験をしてもらう場作りを提供してきました。また、それなりの成果が出ているとオイコスは自負しております。

毎月1回の花輪川の清掃活動や水質調査・放射能測定などの会員の一部の人が見えないところでの活動は決して楽なものではありません。でも たくさんの方の集まりが楽しい活動に変えると考えています。長年に渡り同じような行事はマンネリ化になって新鮮味が会員自体にもなくなっていると感じています。常に新しい会員の拡大と、新しい行事にチャレンジしていくことが団体を維持していくことだと思っています。

美しく豊かな環境の保全は一朝一夕にはなしがたいものであり、放置すればまた元の荒地になってしまうと感じています。今年度もご協力いただいた関係各位の方に心より感謝を申し上げますとともに、今後の支援、ご協力をお願い申し上げます